三四	一九五九	九、一二五	七月十二日豪雨東山一二〇・七粍、八月十二、三日豪雨南倉沢二三八・四粍、九月二十五、六日の颱風による雨量はさらに大で、田島で二四三・五粍、当地にて第二位記録。被害は比較的軽微であった。
三六	一九六一	九、二七 九、二八	宮川大洪水、郡山自衛隊、北会津村救援に来る。

九、雨量と洪水

1、盆地気候のあらまし　気候は生活の条件としては、むしろ地形よりも大きい。しかし地域をせまくとると近い距離では、あまり変化も甚しくないから、むしろ地形による環境の差異の方が、生活に強くでてくる。会津盆地は、奥羽山脈が日本島の脊梁をなしているので、明らかに裏日本式、西会津山地の大半は越後山脈に属して、冬に雪の多い、むしろ北陸型の気候といってよい。

しかし北会津村は盆地のほぼ中央部にある完全な平地で、降雪の初日平均は十一月二十二、三日、終日は翌年の四月七、八日となっているそうであるが、根雪といって、積った雪が春までもつのは、平年なら十二月半ば過ぎから、翌年の、おそくも三月上旬までのことが多い。昔より雪は少なくなったという人があるが、これは特に三月末になっても、道路のわきにも、うず高い雪がみられる、稀な雪の多い年のことを記憶しているためではなかろうかと思われる。会津若松市材木町にある気象庁の若松測候所などでは、そこでの最深積雪年平均をみると一七二センチとなっており、会津高田町が約一八〇センチ、会津坂下町が一五一センチ、喜多方市一六〇センチとあり、平年は雪が多いといっても、一五〇センチを越えることは珍らしい。しかし盆地周辺の山地地方になると全く様相を異にして、田島で二三五センチ、猪苗代で二一四センチも決して少なくないが、只見町にはいる